

令和4年2月28日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立吹上幼稚園長
伊藤 知穂美

令和3年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点(主題)	心を動かして生き生きと生活する幼児の育成 ～気付く、見付けるって面白い 考えるって楽しい～	II
------------------	--	----

1 実践のねらい

昨年度から引き続き同じテーマで行い、今年度は、幼児が気付いたり見付けたりしたことへの欲求や目的がどこにできているのか、幼児がどんなふうに試したり考えたりしているのかを探りながら、育ちの関連性に目を向け、研究実践していった。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ① 幼児の気付きや発見した場面を捉え、姿や思いを記録し、幼児の欲求や目的がどこにできているのか、また、どんなふうに試したり考えたりしているのかを探る。
- ② 記録や考察をもとに、また、研究保育や事例検討を通して、幼児が試したり考えたりして思考を深めていく次の手立てをICT機器を含めて考え実践する。
- ③ ICT機器を使って、月のたよりを掲載したり、日々の様子をドキュメンテーションで知らせたりして、幼児の育ちや教師の援助を保護者に分かりやすく知らせ、保護者との連携を図り保育の充実に努める。
- ④ 掲示物やHP、未就園の会などを通して地域の未就園児の保護者にも本園の取り組みを紹介し、幼児教育への理解が深まるよう努める。

3 実践の内容

実践よりわかったこと

- ・ 3歳児の実践から、教師の言葉は、幼児が初めて見たものに対する興味のもち方に影響を与えていることが分かった。教師は、幼児が様々なものに興味関心をもちどんな関わりをしてほしいか願いをもちながら、想像が広がる言葉をたくさん掛けたり関わったりしていくことが大切である。
- ・ 4歳児の実践から、教師は、幼児が疑問に思ったことの答えをそのまま教えるのではなく、幼児自身がものや素材に触れ、実際に試したり推測したりできるようにすることが大切であることが分かった。また、幼児が身近な環境により親しみをもって関わり、興味関心が深まるように、教師も幼児の気付きに寄り添い、幼児が疑問に感じたことを一緒に考えたり、発見したことを共に喜んだりすることが大切である。
- ・ 5歳児の実践から、今までの自分の経験から、自分たちなりに考えたり調べたりしつつ、実際の体験を通して考えを深めていける環境を用意することが大切であることが分かった。また、タブレットで動画を撮り、視覚的にとらえることで、より分かりやすくなり、友達と情報が共有され、新しい気付きから考えが広がったり深まったりしていくことがわかった。ICT機器を状況に応じて活用していくと効果的である。

4 成果と課題

年齢を経るごとに、興味ある体験を通して思考を深めていく幼児の育ちを捉えることができた。保護者アンケートからは「保育ドキュメンテーションで園の様子がよくわかる」「子ども一人一人の興味や関心を大切にしてくださっている。」「植物や昆虫などに興味もてる環境づくり、教育をしていただけて子どもにとって良い経験となっている。」などの意見があり高評価をいただいた。

学校関係者評価においては、努力点やスクールイノベーションの取り組み、保護者アンケートについてお伝えしたところ「子どもたちの心が動いた瞬間を先生方がしっかり受け止めている様子が伝わってきた。次のステップへ自ら進もうとする子どもたちを支えてくださりうまくいかなくても友達に協力を仰いで時間をかけて粘る体験をすることは素晴らしい。」などと高評価を得た。

ICT機器の利用については、幼児が見つけたり考えたりする喜びを感じたり、保護者に保育の内容を理解してもらったりする機会となっているので今後も有効に取り入れていく必要を感じている。

5 来年度に向けて

来年度は、各年齢の育ちの関連性を踏まえて、幼児が気付きや発見から思考を深めていく姿を大事にし保育を行っていききたい。そして、教師同士、あるいは教師と保護者が、幼児の思いや体験を情報共有することでコミュニケーションを深め、共に幼児の育ちを考えていけるようにしたい。